

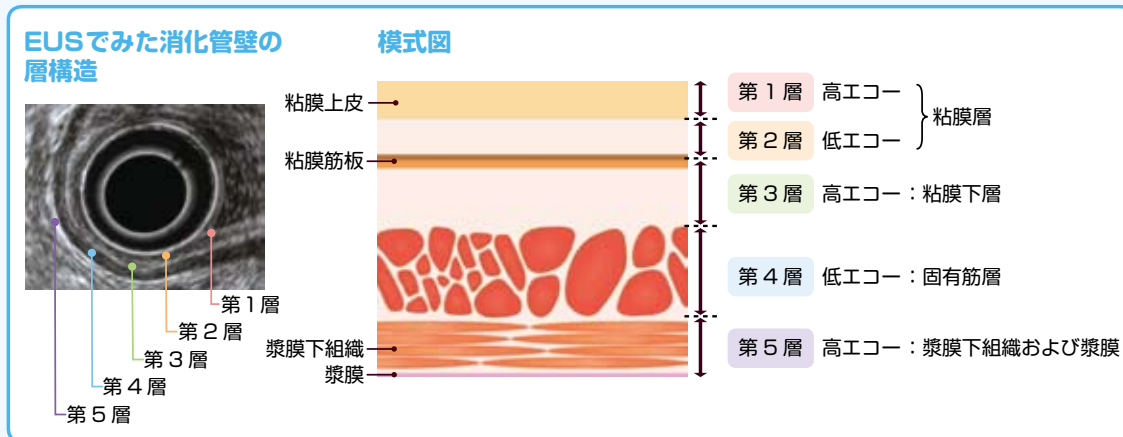
18 胃粘膜下腫瘍

■ 疾患の分類

腫瘍性病変	
非上皮性腫瘍	間葉系腫瘍 (GIST, 平滑筋腫・平滑筋肉腫, 神経鞘腫など)・血管原性腫瘍 (血管腫, グロムス腫瘍, 血管肉腫, Kaposi 肉腫など)・脂肪腫・脂肪肉腫・悪性リンパ腫・悪性黒色腫など
上皮性腫瘍	カルチノイド・粘膜下腫瘍様形態を呈する癌腫 (リンパ球浸潤性髄様癌, 未分化型または低分化腺癌, 粘液癌, 異所性胃腺から発生した癌など)・転移性腫瘍など
非腫瘍性病変	
	迷入腺 (異所性腺)・炎症性線維性ポリープ (IFP)・粘膜下層の異所性腺管や嚢腫 (嚢胞) など

■ 消化管壁の層構造

- 一般的に消化管壁は5層に描出される。
- 第1層は高エコー, 第2層は低エコー, 第3層は高エコー, 第4層は低エコー, 第5層は高エコーに描出される。



■ EUSによる診断

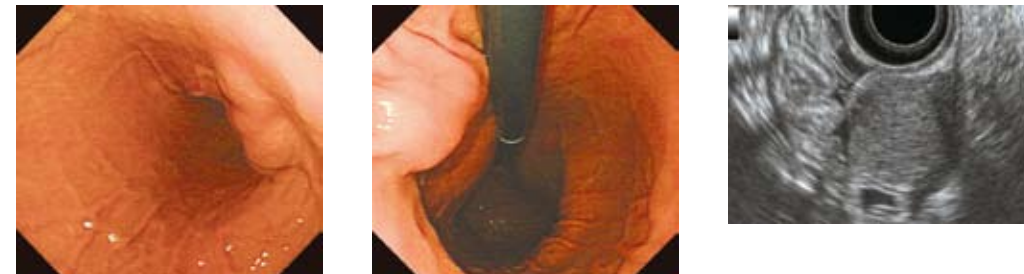
	存在部位	境界	内部エコー
悪性リンパ腫	第2～3層	明瞭	低エコー, 均一
迷入腺 (異所性腺)	第3層, ときに第4層	不明瞭	低エコー内の点状線状高エコー, しばしば導管様構造 (脈管様・嚢胞状エコー)
カルチノイド	第2～3層 浸潤した場合は第4層	明瞭	低エコー, 均一
嚢胞	第3層	明瞭	無エコー, 後方エコー増強, ときに隔壁あり
リンパ管腫	第3層	明瞭	無エコー, 均一, 内部に隔壁, 多発性
脂肪腫	第3層	明瞭	高エコー, 均一
炎症性線維性ポリープ	第2～3層	不明瞭	低エコー, 均一
GIST	第4層	明瞭	低エコー, 不均一の場合が多い (内部に無エコー, 境界不明瞭は悪性を疑う)
平滑筋腫	第4層	明瞭	低エコー, 均一
神経鞘腫	第4層	明瞭	低エコー, 均一

腫瘍の存在層からある程度の鑑別は可能であるが, ときに主座が他の層にまたがることもある。

■ 主な粘膜下腫瘍の特徴

迷入腺 (異所性腺)

- 内視鏡上は半球状の軟らかい腫瘤で, 頂部に臍窩 (粘膜下の腺組織より胃内腔に通じる導管の開口部) を伴う。
- 存在部位は粘膜下層に多いが, 固有筋層にもみられる。
- 前庭部大弯に多いが, 胃体部のものは非典型的で GIST との鑑別が問題になることがある。



体中～下部小弯後壁に25mm大の粘膜下隆起を認める。EUSでは第4層と連続している。

脂肪腫

- 内視鏡上は, 半球状の表面平滑で軟らかい腫瘤として認める。
- 黄色調の色調が特徴的で, 幽門から前庭部に多い。

カルチノイド

- 粘膜深層に発生し, 粘膜固有層から粘膜下層へ膨張性発育するため, 粘膜下腫瘍の形態を呈する。
- 胃体部に多く, 多発例もみられる。
- 病変が比較的表層に近いため, 生検により診断がつくことが多い。
- 2cmを超えると中央陥凹を伴い, 約50%で固有筋層に浸潤する。



体中部前壁に軽度発赤調の隆起性病変を認める。EUSでは第1・2層を主座とする境界明瞭で均一な低エコー像を呈する。

炎症性線維性ポリープ

- 前庭部に多く, 単発性である。
- 表面平滑で色調は周囲と同じだが, びらんや潰瘍を伴う場合もある。

リンパ管腫・嚢腫 (嚢胞)

- 前庭部, 単発性が多い。
- 表面平滑な半球状のなだらかな腫瘤で, 透明感があり, 軟らかい。

神経鞘腫

- 基本的に良性である。
- 免疫組織学的には, c-kit, desmin, α -smooth muscle は陰性, S-100 が陽性, CD34 は約50%の症例で部分的に陽性を示す。